

2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2025年2月6日



品川リフラクトリーズ株式会社

目次

1. 連結業績ハイライト
2. 営業利益・EBITDA（連結）の増減要因
3. セグメント別売上高及びEBITDA
4. セグメント別概況 ①耐火物セクター
5. セグメント別概況 ②断熱材セクター
6. セグメント別概況 ③先端機材セクター
7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
8. 2025年3月期の通期業績見通し
9. 2025年3月期通期 営業利益・EBITDA（連結）の増減要因見通し
10. 地域別の売上高
11. トピックス

1.連結業績ハイライト

(単位：億円)

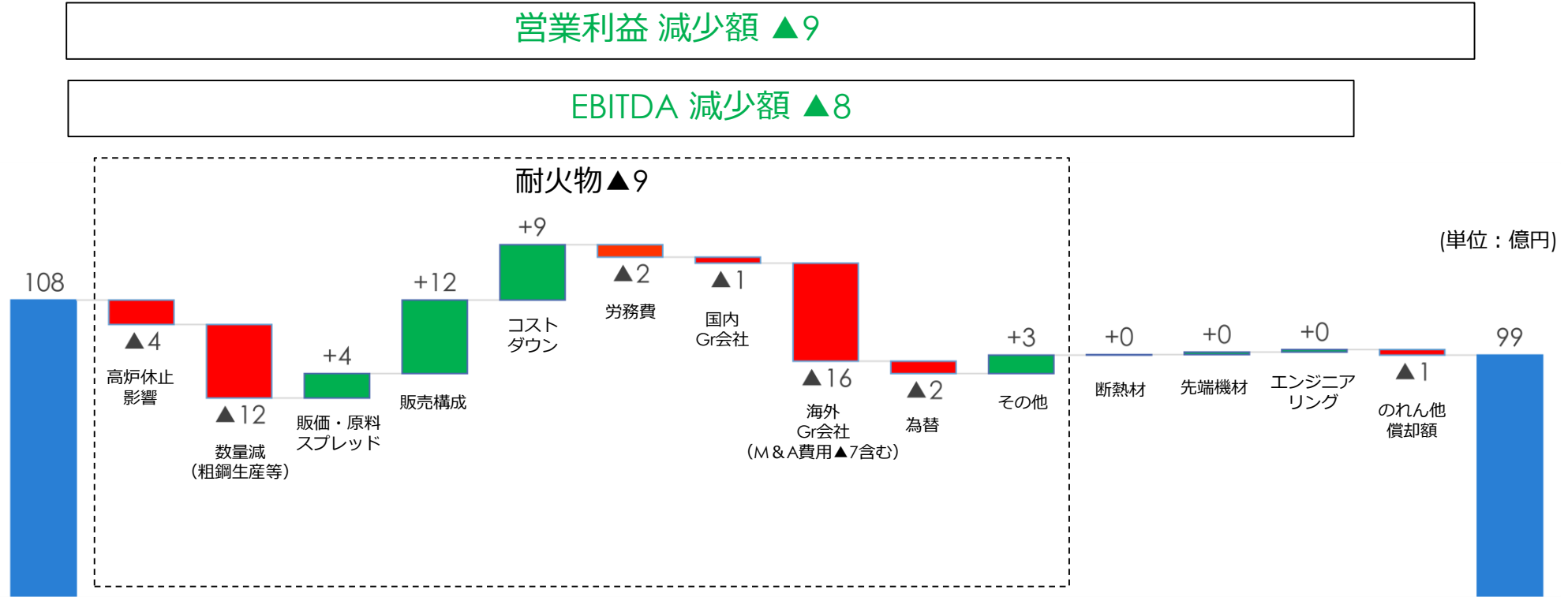
	2024年3月期 第3四半期 実績	2025年3月期 第3四半期 実績	前年同期比	
売上高	1,091	1,050	▲40	(▲3.7%)
EBITDA	136	128	▲8	(▲6.0%)
営業利益	108	99	▲9	(▲8.3%)
経常利益	115	108	▲7	(▲6.3%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	126	79	▲46	(▲37.2%)
<指標> EBITDAマージン	12.5%	12.2%	▲0.3pt	
ROS (営業利益率)	9.9%	9.5%	▲0.4pt	
ROIC	9.6%	7.3%	▲2.3pt	
DEBT/EBITDA倍率	0.5倍	2.3倍	+1.8pt	

注1：前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様

注2：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2025年3月期 第3四半期 国内粗鋼生産量は前年同期比4.3%減の6,256万トン。
- 国内外への拡販活動、価格改定、販売構成の改善によるスプレッドの拡大、コストダウン等を進めたものの、国内の粗鋼生産の減少に加えて、海外においてもオーストラリアでお客様の操業トラブルが年初に発生し、ブラジルでは中国製鋼材の流入による活動水準の低下が生じた。これらに起因する耐火物販売数量の減少等により減収、各段階利益については、先般、開示しましたオランダのGouda社のM&Aに伴う関連費用7億円の発生等も加わり減益。
- 前年同期は固定資産売却益65億円を計上したことに對して、当第3四半期連結累計期間には大きな固定資産売却益がないことから親会社株主に帰属する四半期純利益は37.2%減。

2. 営業利益・EBITDA（連結）の増減要因



2024年3月期
第3四半期
(営業利益)

2025年3月期
第3四半期
(営業利益)

価格改定、販売構成の改善やコストダウン活動を継続したものの、国内の粗鋼生産量減少等による耐火物販売数量減、お客様の操業トラブルやM&A費用の発生による海外Gr会社のマイナス影響により、EBITDA（連結）は▲8億円の減益、営業利益はのれん償却額が加わり▲9億円の減益。

3.セグメント別売上高及びEBITDA

(単位：億円)

		2024年3月期 第3四半期実績	2025年3月期 第3四半期実績	前年同期比	
耐火物	売上高	746	695	▲51	(▲6.8%)
	EBITDA	83	74	▲9	(▲11.0%)
断熱材	売上高	136	141	+4	(+3.3%)
	EBITDA	31	31	+0	(+0.4%)
先端機材	売上高	26	33	+6	(+23.8%)
	EBITDA	2	3	+0	(+19.8%)
エンジニアリング	売上高	188	188	▲0	(▲0.1%)
	EBITDA	13	14	+0	(+3.9%)
その他（不動産）	売上高	6	6	+0	(+0.6%)
	EBITDA	4	4	+0	(+0.2%)
合計	売上高	1,091	1,050	▲40	(▲3.7%)
	EBITDA	136	128	▲8	(▲6.0%)

注1：2024年4月より「セラミックス」セクターから「先端機材」セクターに組織改編

注2：合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

4.セグメント別概況 ①耐火物セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期第3四半期	2025年3月期第3四半期	前年同期比	
売上高	746	695	▲51	(▲6.8%)
EBITDA	83	74	▲9	(▲11.0%)
営業利益	64	55	▲9	(▲14.1%)
EBITDAマージン	11.2%	10.7%	-	(▲0.5Pt)

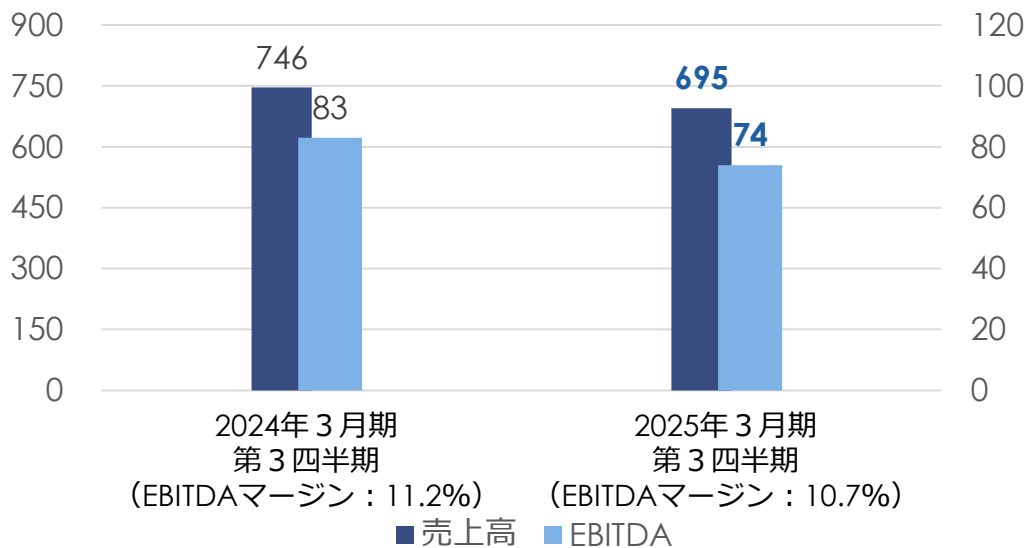
「業績レビュー」と「今後の課題」

<第3四半期業績について>

- ▶ 厳しい事業環境の中、国内においては拡販活動、価格改定、販売構成の改善、コストダウン等により、減収ではあるものの、増益
- ▶ 海外におけるお客様の操業トラブルや活動水準の低下による販売減の影響が大きく、減収・減益

<今後の課題>

- ▶ グローバル拠点間での相互の技術移転や製品構成の補完
- ▶ 国内・海外における非鉄・工業炉分野への浸透加速
- ▶ 機能性耐火物を中心とした国内外への拡販活動
- ▶ スプレッドの維持・拡大のための価格改定、および販売構成の改善
- ▶ 代替原料の活用や工場の生産性向上によるコストダウンの強化



5.セグメント別概況 ②断熱材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比	
売上高	136	141	+4	(+3.3%)
EBITDA	31	31	+0	(+0.4%)
営業利益	25	25	▲0	(▲0.4%)
EBITDAマージン	22.8%	22.1%	-	(▲0.7Pt)

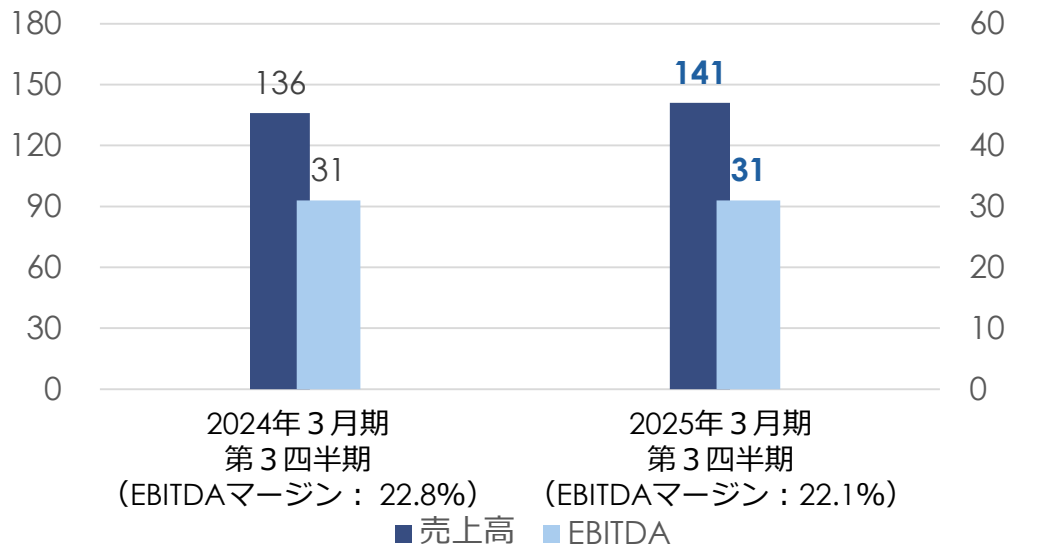
「業績レビュー」と「今後の課題」

<第3四半期業績について>

- ▶ 国内の耐火断熱レンガの販売が増加し、増収
- ▶ 利益率の高いセラミックファイバー関連製品の販売が減少し、利益は横ばい
- ▶ 半導体関連製品の国内需要は回復遅れ

<今後の課題>

- ▶ 今後の需要拡大が見込まれる半導体・電子部品関連製品需要の確実な捕捉
- ▶ 燃料電池用部材等、成長市場向けの技術開発力強化と拡販
- ▶ 断熱材セクターと新たに加わったGouda社との連携により欧州・中東・アフリカを含む地域への販売強化



6.セグメント別概況 ③先端機材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比
売上高	26	33	+6 (+23.8%)
EBITDA	2	3	+0 (+19.8%)
営業利益	1	1	△0 (△3.4%)
EBITDAマージン	10.6%	10.3%	- (▲0.3Pt)

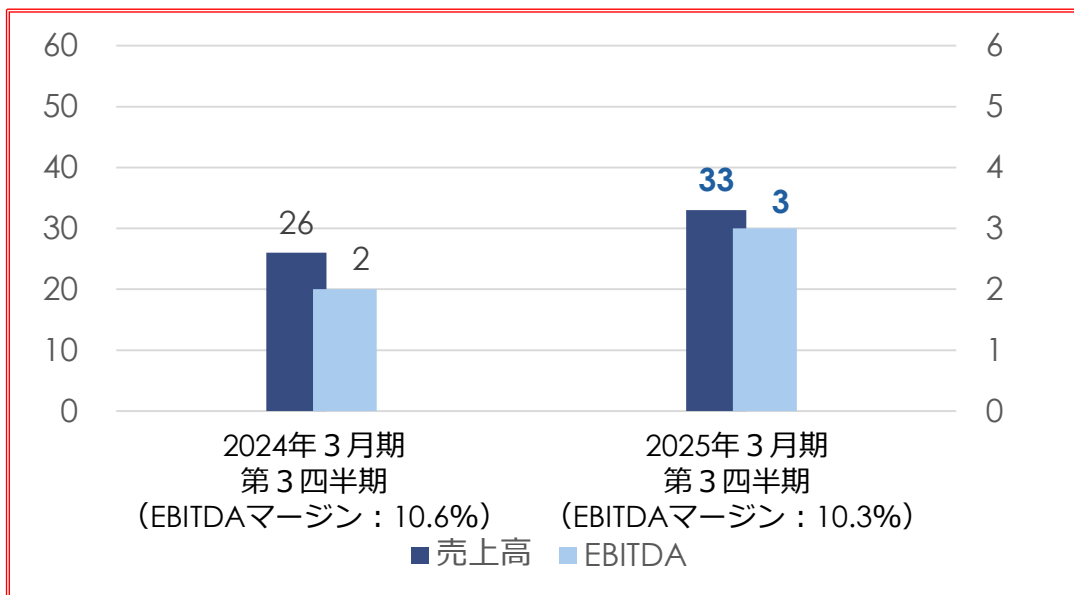
「業績レビュー」と「今後の課題」

<第3四半期業績について>

- ▶新たに加わったコムイノベーション社の業績が寄与し、増収
- ▶EBITDAは増益も、コムイノベーション社ののれん償却額の発生により、営業利益は横ばい
- ▶国内の半導体製造装置向けファインセラミックス製品の需要は回復遅れ

<今後の課題>

- ▶今後の需要拡大が見込まれる半導体関連向けの製品・サービスの確実な捕捉
- ▶各分野向け耐摩耗部材の開発強化と拡販
- ▶無機塗料・無機接着剤製品の販売強化
- ▶品川ファインセラミックス社の吸収合併および新工場建設への対応



7.セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比
売上高	188	188	▲0 (▲0.1%)
EBITDA	13	14	+0 (+3.9%)
営業利益	11	12	+0 (+5.4%)
EBITDAマージン	7.2%	7.5%	- (+0.3Pt)

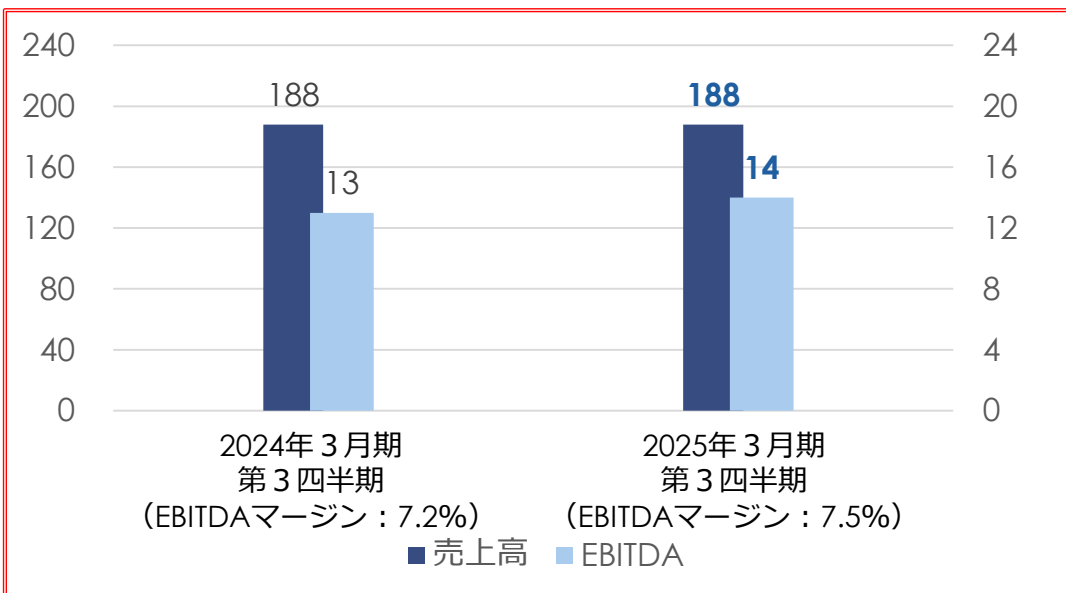
「業績レビュー」と「今後の課題」

<第3四半期業績について>

- ▶ 人件費の上昇に伴う工事契約単価の改定を行いつつも各所工事案件の減少により、売上高は横ばい
- ▶ 工事案件の構成差により、増益

<今後の課題>

- ▶ カーボンニュートラル案件（大型電気炉、カーボンリサイクル高炉）の対応
- ▶ 熱風炉・コークス炉等の大型建設工事案件の受注
- ▶ カーボン焼成炉等の工業炉分野での受注拡大
- ▶ ドローンの活用等、新技術の導入・開発による作業効率化の推進



8. 2025年3月期の通期業績見通し

(単位：億円)

	2024年3月期 通期 実績	2025年3月期 通期 見通し	前期比	
売上高	1,441	1,420	▲21	(▲1.5%)
EBITDA	176	170	▲6	(▲3.9%)
営業利益	138	125	▲13	(▲10.0%)
経常利益	149	130	▲19	(▲12.8%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	152	90	▲62	(▲41.1%)
<指標> EBITDAマージン	12.3%	12.0%	▲0.3pt	
ROS (営業利益率)	9.6%	8.8%	▲0.8pt	

注：2025年3月期通期の業績見通しは2024年11月7日に公表の数値

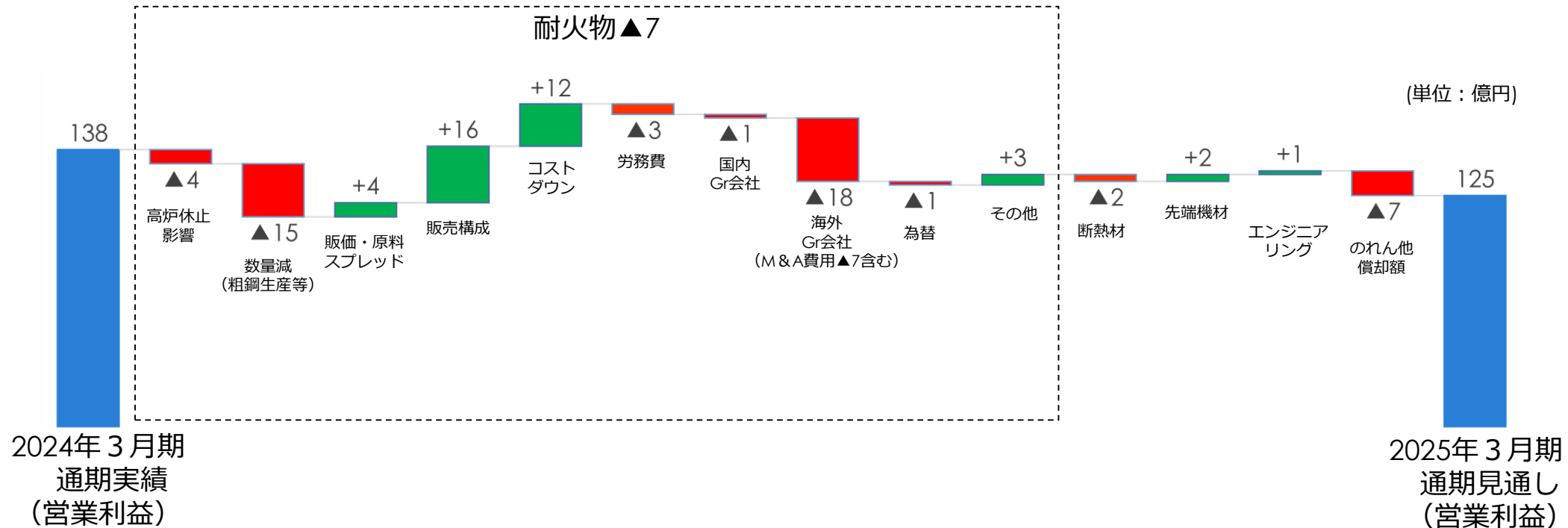
<2025年3月期 通期見通し>

- 2025年3月期 通期 国内粗鋼生産量は前年同期比3.3%減となる8,400万トンを想定。
- 国内外への拡販活動等による業績へのプラス影響を見込むものの、国内の粗鋼生産量の減少に加えて、海外のお客様の操業トラブルや活動水準の低下に伴う影響が大きく、減収、各段階利益については、M&Aに伴う関連費用の発生等も加わり、減益の見通し。
- 前期は固定資産売却益65億円を計上したことに対して、当期には大きな固定資産売却益がないことから親会社株主に帰属する当期純利益は41.1%減となる見通し。

9. 2025年3月期通期 営業利益・EBITDA (連結)の増減要因見通し

営業利益 減少額 ▲13

EBITDA 減少額 ▲6



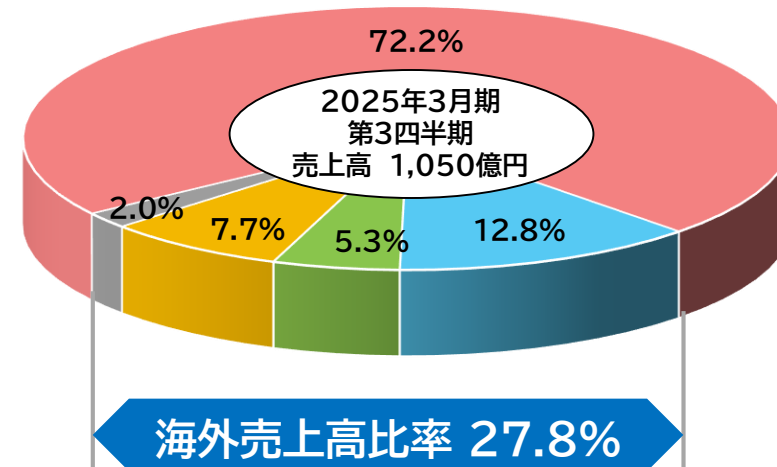
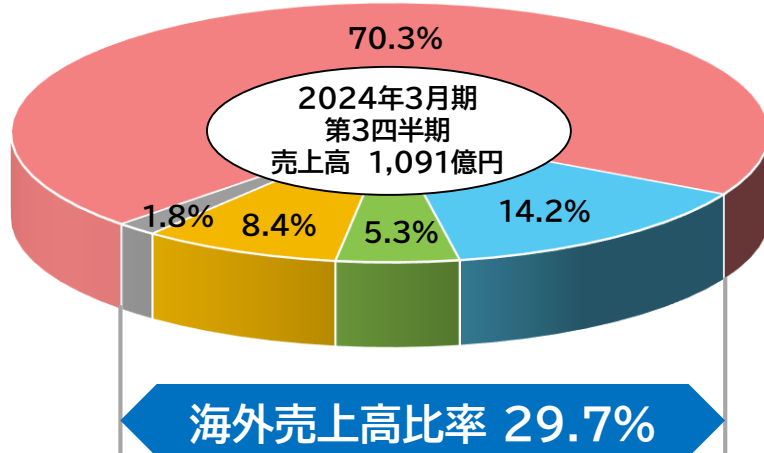
販売構成の改善やコストダウン活動等による増益を見込むものの、国内の粗鋼生産量減少等による耐火物販売数量減、お客様の操業トラブルやM&A費用の発生による海外Gr会社のマイナス影響により、EBITDA (連結)は▲6億円の減益、営業利益はGouda社ののれん償却額等が加わり▲13億円の減益見通し。

10. 地域別の売上高

(単位: 億円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比
日本	767 [70.3]	758 [72.2]	△1.1%
アジア・オセアニア	154 [14.2]	134 [12.8]	△13.3%
北米	57 [5.3]	56 [5.3]	△2.5%
南米	92 [8.4]	80 [7.7]	△12.2%
その他海外	19 [1.8]	21 [2.0]	+7.4%
合計	1,091 [100.0]	1,050 [100.0]	△3.7%

注: []内は、地域別の売上高構成比(%)



当第3四半期は、前年同期比で海外売上高比率が1.9%低下。オーストラリアではお客様の操業トラブルによる影響、ブラジルでは中国製鋼材流入によるお客様の活動水準の低下により、耐火物販売数量が減少。当第4四半期よりGouda社の業績が加わるが、仮にGouda社の業績が年間で寄与した場合の想定では海外売上高比率は**約36%**となる。

11.トピックス

品川ファインセラミックス株式会社の合併

当社はグループのファインセラミックス事業を担う子会社・品川ファインセラミックス株式会社を吸収合併することといたしました。

(2025年4月1日に合併予定)

ファインセラミックス事業の拡大は、当社グループの中長期的な成長戦略の重要な柱の一つとなります。

今後、生産基盤の整備や生産能力の拡大に向けた設備投資を行うにあたり、両社の経営資源や技術・人材の統合による経営の効率化を推進し、グループの成長を図ってまいります。

丸の内への本社移転

当社は本社を丸の内に移転することといたしました。

(2025年3月31日に移転予定)

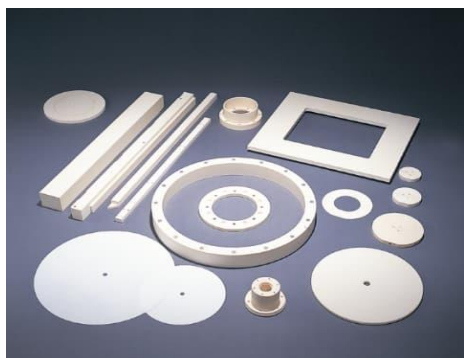
丸の内は、1914年に東京駅が建設された際、当社の前身である品川白煉瓦社が化粧れんがを全量納入したという、当社にとって「ゆかり」の地となります。

グローバルに事業を展開するグループとして、オープンなオフィス空間で、多様な人材が活躍できる環境づくりを推進いたします。

<新本社>

東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー12F

注：合併および本社移転については、2025年1月22日に公表



ファインセラミックス製品群



サピアタワー
(株式会社JR東日本ビルディング提供)

ご注意

本資料は、2025年3月期第3四半期決算（2024年4月～2024年12月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2025年2月6日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。